



平成 28 年度公益財団法人櫻谷文庫事業計画（案）

基本的考え方

櫻谷文庫は、大正 2 年（1913 年）建造の木島櫻谷の居宅である和館、洋館、画室の建造物および櫻谷作品、習作、写生帖等、櫻谷収集の書画書籍類などの収蔵品からなる。

建築物 3 棟は、国登録有形文化財（文化財保護法（昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号）57 条による登録）、景観重要建造物（景観法（平成 16 年 6 月 18 日法律第 110 号）に基づき京都市長により指定）に登録、指定されている。また、櫻谷作品、習作、写生帳や画材、手紙類など櫻谷の制作に関わる資料類、さらに櫻谷の収集した中世から近代にかけての伊藤若冲、長沢芦雪、渡辺崋山、池大雅、頼山陽、寂庵、荻生徂徠、貝原益軒を始めとする日本画関係書画、詩文集、書籍、典籍や朱子学国学関係、近代美術関係資料など一万点以上を収蔵している。

建造物、所蔵品の一般公開・展示、収蔵物資料等の調査、整理、データベース化のため、建造物の維持修復、収蔵品等の維持、修復、調査、研究を進める。これらにより、近代建築史、美術・美術史、芸術の振興、学術研究への寄与、京都市を含む地域振興をめざす。

また隣接する学校法人ヴィアートル学園等と連携し、教育活動の推進のため一層の協力、支援をすすめる。

公益目的事業

- (1) **調査・整理事業-1** 公益財団法人泉屋博古館学芸室との共同での収蔵資料の調査、データベース作成、
公益財団法人泉屋博古館との共催で 2017 年開催予定「木島櫻谷展～動物画を中心にして（仮）」に向けた準備をすすめる
- 1) 2014 年度までは、軸・屏風、色紙短冊扇面、下絵、習作、写生帖、落款印の調査、整理を行った。2015 年度は、櫻谷愛玩品のうち雛人形等を調査した。また 250 冊にのぼるスケッチ帖の調査は概ね終了した。
- 2) 本年度 2016 年度は、スケッチ帖の調査、整理を終了し、数千点以上の書簡類の整理、調査を開始する。スキャナーでの画像取込み、整理をすすめ成果の公開、展示につなげる。
- 3) なお、経費の発生を抑えるため、調査、整理については臨時アルバイトを雇用せず、泉屋博古館学芸室実方葉子主査、櫻谷文庫業務執行理事門田節の 2 名で実施する。



- (2) **調査・整理事業-2** 東京藝術大学大学院保存修復日本画研究室、公益財団法人泉屋博古館との共同での櫻谷の画材等の調査、分析
膠、顔料、墨、硯など画材類が櫻谷存命中のままの状態に遺されており、
分析、調査を開始する。

調査結果をもとに、現在調査中の書簡類、写生類、古典書類の調査とあわせて国登録有形文化財（美術工芸品）指定を文化庁文化財部美術学芸課に働きかける。

関係先

- ・ 泉屋博古館 野地耕一郎分館長、実方葉子主査

京都市美術館蔵 木島桜谷《寒月》の彩色材料分析調査報告

◎田中 真奈子¹・荒井 経²・松島朝秀³・高林弘実⁴・野角孝一³

(1東京藝術大学、2東京藝術大学大学院、3高知大学、4京都市立芸術大学)

1. はじめに

京都市美術館蔵 木島桜谷《寒月》(大正元年)の彩色材料分析を行った。明治時代以降、近代日本画家達は新しい日本画の確立にむけ新しい技法や彩色材料を積極的に取り入れたことが知られているが、その時期に日本で使用されていた彩色材料は複雑で、まだ明らかになっていない点も多い。木島桜谷《寒月》は大正元年の第6回文展入選作であるが、その前年の第5回文展入選作である横山大観《山路》にみられた近代日本画における新しい岩絵具表現が波及した代表例と言われている¹。横山大観《山路》については、先行研究による彩色材料の同定を目的とした自然科学的調査を通して、褐色系の新造岩絵具(人造岩絵具)が用いられていることが明らかになっている²。

2. 目的

本研究は、四条派の日本画家である木島桜谷の初期代表作の一つである《寒月》の自然科学的調査を通して、木島桜谷の色彩表現を支えた彩色材料について明らかにし、新しい岩絵具表現の普及をはじめとする近代日本画における彩色技法の歩みについて考察することを目的としている。

4. 結果および考察

調査で得られた19箇所の分析結果のうち、代表的な色味の分析箇所を図1に、蛍光X線分析結果などから推定される彩色材料の概要を表1に示す。



図1 木島桜谷《寒月》大正元年(1912年) 167.0×372.0cm 絹本着色 屏風 六曲一双 京都市美術館蔵

褐色には水銀朱や鉄化合物による褐色の岩絵具が用いられている。白色の雪の部分からはいずれもCaが強く検出されたことから胡粉が使用されている。一方、白色の月の部分からはSiが検出されたことから白土の使用が推定される。竹の葉や幹の部分には濃い青色や黒色が用いられている。光学顕微鏡観察により、濃い青色は青みがかった黒色の粒子と鮮やかな青色の粒子で構成されていることが確認された。蛍光X線分析により、図2に示すように濃い青色部分からはCuの他PbやAsが、黒色部分からはCuが検出されたことから、濃い青色部には天然岩絵具の燒群青と人造岩絵具の青色が用いられていると考えられる。

光学顕微鏡観察により画面上部の空の部分に光沢のある灰色の粒子が確認され、蛍光X線分析によりそれらの部分からAl、Ca、S、Fe、Si、Kが検出された(図3)。霏母あるいはアルミ泥の可能性が想定されるが、現在入手できる霏母とアルミ泥の形状や組成(図4)との詳細な比較検討結果と、アルミ泥が日本で絵画材料として使用された始めた時期などを総合的に考えると、本作品の灰色部には霏母が用いられている可能性が高い。

5. まとめ

《寒月》に用いられている彩色材料調査を通して、明治から昭和初期にかけて活躍した四条派の日本画家である木島桜谷が、大正元年の時点で、青色の人造岩絵具を含む多様な彩色材料を用いていたことを明らかにした。本調査結果は、木島桜谷の用いた技法研究において有益な情報であるだけでなく、近代日本画における彩色材料の複雑な変遷を研究する上でも非常に重要な意義を持つものである。

謝辞

本研究は平成24年度科研戦略的萌芽研究「東洋美術における支持体と表現(課題番号24652036、研究代表者:野角孝一)」の一環として行われたもので、記して深謝する。

<参考文献>

- 1 荻川臨風「横山大観氏とその絵画」。『日本美術』165号、日本美術社、1912年1月。
- 2 荒井経・小川純子・平諒一郎「岩絵具の新表現—《山路》の材料と技法」。『横山大観《山路》』、東京文化財研究所編、美術研究作品資料第6冊、東京文化財研究所/中央公論美術出版、P.45-52(2012)。

3. 調査方法

- ①携帯型光学顕微鏡:表面状態の観察
[使用機器]Dino-Lite Digital Microscope Pro 500x
- ②近赤外線反射撮影:彩色材料の推定
[使用機器]デジタルカメラ:SONY CYBER SHOT DSC-F628
IRフィルター:FUJII FILTER OPTICAL IR60
[撮影条件]AUTO・ナイトショットモード 撮影領域:約800nm—約1000nm
- ③ハンドヘルド蛍光X線分析装置:定性分析
[使用機器]Thermo-NITON 携帯型成分分析計 XL3t-900S-M
[測定条件]X線管球ターゲットAg、Mining Mode Cu/Zn 測定時間100sec、コリメーター8mmφ、測定ヘッドと資料との距離約10mmに設定し非接触で分析を行った。

表1 木島桜谷《寒月》に使用された彩色材料の概要

No.	部位	測定箇所	色	検出元素	推定される主な彩色材料
1	左	キツネ	褐色	Ca, S, Fe, Hg	胡粉、水銀朱
2	左	本	褐色	Ca, Fe, S, Cu	胡粉、鉄化合物による褐色の岩絵具
3	左	雪	白色	Ca, Fe	胡粉
4	右	雪	白色	Ca, Fe	胡粉
5	右	月	白色	Si, Ca, Fe	白土
6	左	本の葉	濃青色	Cu, Fe, Pb, Ca, As	燒群青、青色の人造岩絵具
7	右	本の葉	濃青色	Cu, Fe, Ca, Pb, Si, As	燒群青、青色の人造岩絵具
8	左	木の幹	黒色	Cu, Ca, Fe	燒群青
9	左	空	光沢のある灰色	Al, Ca, S, Fe, Si, K	霏母、霏母?
10	右	空	光沢のある灰色	Ca, Al, S, Fe, Si, K	霏母、霏母?
11	左	印章	赤色	Ca, Fe, Hg, S	水銀朱

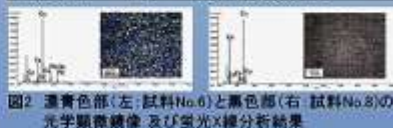


図2 濃青色部(左:試料No.6)と黒色部(右:試料No.8)の光学顕微鏡像及び蛍光X線分析結果

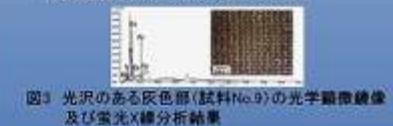


図3 光沢のある灰色部(試料No.9)の光学顕微鏡像及び蛍光X線分析結果



図4 現在市販されている霏母(3番、左)とアルミ泥(右)の光学顕微鏡像及び蛍光X線分析結果



(3) 所在不明櫻谷作品の所在調査

2017 年秋開催予定の櫻谷展第 2 弾「木島櫻谷展～動物画を中心に (仮)」に向けた所在不明の櫻谷代表作 (大正初期から昭和初期) の所在調査
泉屋博古館本館 (京都鹿ヶ谷) にて予定している「木島櫻谷展～動物画を中心に (仮)」に向け、櫻谷後半生の文展、帝展出品作品を 15 年間にわたり連続して購入した小津与右衛門氏所蔵作品の所在について調査を継続する。

(4) 櫻谷文庫所蔵櫻谷作品の修復

第 4 回文展 3 等賞入賞作「かりくら」の修復助成を公益財団法人住友財団および公益財団法人出光文化福祉財団に申請しており (修復概算費用は 4,103 千円)、現在結論待ち。未決定であるため予算には含んでいない。

(5) 建築物の修復保全

登録有形文化財・京都市重要建造物指定の「和館」は建設後 103 年になり、屋根の重量等による建物全体の歪みによる不具合が著しい。屋根の修理に関し、京都市に申請中の市街地景観整備補助金が決定した場合修理修復工事を夏に実施する。現時点で補助金助成が未決定であるため予算には含んでいない。

助成金による工事内容：大屋根、下屋根瓦葺き替え (軽量化)、外壁、雨戸、木部破損部分修理、樋交換

補修に必要な費用 19,783 千円 (一次見積) 計算上の補助金予定：7,913 千円

(6) 櫻谷文庫の公開、

櫻谷作品や収蔵物、登録文化財建築物の一般公開、京都市文化財マネージャー育成講座、泉屋博古館の博物館講習への実技実習協力の事業、立命館大学文学部京都学講義、立命館大学アトリエサーチセンター、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科建築造形学部門演習への協力、併せて京都市 MICE 推進事務局に連携し、映画、テレビドラマ制作に協力する。

1. 2017 年 3 月は、本年に引き続き「桃の節句」の時期の公開・展示を行う。入場料 504,000 円、人件費 (10 日×5 人、4 日×3 人(門田 2 名無料)×5,500 円=) 341,000 円、印刷代 30,000 円、雑費・通信費 20,000 円で収益 143,500 円を見込んでいる。

2017 年春に京福電鉄西院駅と阪急西院駅の一体化が完成する予定があり、これに伴い京福電鉄沿線の特別公開、特別イベントを実施するための協力申し入れがあり、京福、阪急との連携もすすめる。



大学講義演習関係 75,000 円、文化財マネージャー育成講座 20,000 円、関係映像制作協力関係 100,000 円の入場料を見込む。なお、これらは経費の発生はない。

2. 随時公開については、グループ、団体等との時間調整の上実施する。20,000 円の入場料を見込む。

3. 地域連携、美術系連携、学術研究教育連携、映像等メディア連携を強化する。等持院等地域の観光スポットとの連携、衣笠地区の堂本印象美術館、高津古文化会館、「平野の家 わざ永々棟」等美術系法人、地域の等持院、真如寺等との連携、京都への来訪者の多い東京での PR 強化のため京都市東京事務所、京都館（東京・八重洲）、江東区文化コミュニティ財団との連携、京福電鉄(株)事業推進部、JR 東海京都・奈良・近江文化情報事務局、京都市観光協会（京都駅観光総合案内所を含む）、京都新聞社、NHK 京都との連携、情報提供を強化する。既存メディアだけでなくインターネット・メディア Facebook、Twitter 等の活用、継続的情報発信によりメディア・ミックスによる情報拡散を図る。

(7) 木島櫻谷の墳墓の維持管理を実施する

収益事業等

洋画家茨木捷彰氏の主宰する美術教室茨木絵画教室に画室をアトリエとして、また地域在住者を主な対象とする整美体操教室（講師：井上敦子氏）に旧画室を教室として提供する。その他の事業として学校法人ヴィアートル学園との連携による教育支援活動を行う。

本年度から、書道教室主宰者大脇氏、和館の一部を制作室として提供していた浜哲郎氏の逝去に伴い賃料収入が年間 264,000 円確保できなくなる。そのため制作室として提供していた和館の一部の内装を行い、活用を検討する。

内装工事に関わる費用については 1,000 千円を見込む。